

# 平成 29 年度 施策評価表

施策 (章)	第 4 章『教育・文化・スポーツ』
-----------	-------------------

まちづくりの目標	教育の充実、文化・スポーツの活性化で所沢の魅力を高めます		
分野別計画・指針	所沢市教育振興基本計画、第4次所沢市生涯学習推進計画、所沢市いじめ防止基本方針、所沢市図書館ビジョン、第2次所沢市子どもの読書活動推進計画、所沢市スポーツ推進計画		
予算額	平成29年度当初予算	96,940 百万円中	10,702 百万円 構成率 11.0 %

## 基本構想で掲げたまちづくりの目標の実現に向けた主な方針

- ◆ 生涯学習の推進
- ◆ 地域とともに歩む学校づくり
- ◆ 確かな学力と健やかな心身を育む学校教育の充実
- ◆ 青少年の健全育成と子ども・若者支援の充実
- ◆ 学校施設の耐震化

## 基本構想で掲げた「市の課題・方向性」への取り組み状況に対する振り返り

○市民ニーズを捉えた学習情報の提供や学習事業を実施し、生涯学習環境の充実を図った。  
 ○教育現場への人的支援については、学習支援員、特別支援教育支援員、学力向上支援講師(2名増員)などを配置し、個に応じた指導の充実を図った。また、児童生徒の学力向上に向けて、学校・家庭・地域が一体となった取り組みを推進した。  
 ○安全・安心な学校給食を安定的に提供するため、老朽化した学校給食センターの整備について検討を行った。  
 ○防音対策として、狭山ヶ丘中学校の普通教室棟で復温・除湿工事を実施した。  
 ○生涯学習活動を支える地域の情報拠点として、図書館資料・情報の充実に努めた。  
 ○体育施設の整備・充実を図るため、北中運動場・北野総合運動場の用地取得を行った。また、所沢航空記念公園多目的運動場の人工芝化に向けた協議を進めた。

## 基本構想で掲げた「まちづくりの目標の実現に向けた主な方針」の実行にあたって、特に力を入れていくこと。

○生涯学習の推進のため学習環境の整備に努め、郷土に対する愛着心を深めていく。  
 ○市立小中学校・幼稚園で創意工夫を凝らした教育活動が展開できるよう、特色ある学校・園づくりの充実を図る。  
 ○安全・安心な学校給食を安定的に提供するため、老朽化した学校給食センターの再整備を進める。  
 ○「学校トイレ改修事業」として小学校4校、中学校2校の工事並びに次年度以降に工事予定校の設計を行うとともに、屋内運動場バスケットゴールの落下防止対策として、小学校で工事を継続して実施するなど学校環境及び安全性の向上のための整備を進める。また、防音校舎改修事業として、狭山ヶ丘中学校・北中中学校にて復温・除湿工事を進める。  
 ○人生をより深く豊かなものとするための読書活動推進の拠点として、図書館資料の充実を図るとともに利用促進に向けた市民への情報提供に努める。  
 ○国指定重要文化財「小野家住宅」を後世に永く残していくため、屋根の全面葺替を中心とした保存修理事業を行う。  
 ○平成29年度より3年間を整備期間とする「所沢航空記念公園多目的運動場人工芝化事業」について、今後の施設整備の内容や工程、工事費など、昨年に引き続き県と協議を行うと併に、共同で事業を進める。

評価日	H29.7.28	記入者職氏名	教育総務部次長 師岡 林
-----	----------	--------	--------------

節	目標指標	単位	(H25) 現状値	H28年度	H28年度	H29年度	将来目標
				実績	目標値	目標値	(H30)
第1節 生涯学習	生涯学習推進センター主催事業参加者数	人	13,988	17,746	18,000	18,000 18,500	19,000
	生涯学習推進センターの主催事業参加者の満足度	%	90	89	96	98	100
	生涯学習推進センターの施設利用者数	人	67,865	73,970	90,000	95,000	100,000
第2節 学校教育	授業がわかりやすいと思う児童・生徒の割合	%	90	93	現状値以上	現状値以上	現状値以上
	教育センター研修会の満足度	%	72	71	74	75	76
	新体力テストにおける全種目の全国平均を上回る割合	%	51.4	52.8	56.0	55.4 60.0	69.3
	学校トイレの改修率	%	23	31	29	32	35
	特色ある私立学校の開校	-	推進	推進	推進	推進	開校
第3節 青少年育成	青少年の健全育成に関する施策への認知度	%	38	50	45	47	50
第4節 社会教育	市民等と協働で企画実施した事業の割合	%	53.8	64.9	57.1	58.2 65.0	59.3 66.0
	図書館の蔵書数	冊・点	892,000	952,424	940,000	908,000 956,000	912,000 960,000
	図書館の資料貸出数	冊・点	1,720,000	1,676,823	1,742,800	1,750,400	1,758,000
第5節 市民文化	芸術・文化に触れる機会への満足度	%	39.1	43.0	42.1	43.1	44.1
	ふるさと所沢に触れる機会	人	12,076	14,668	14,400	15,200	16,000
第6節 スポーツ振興	スポーツ・レクリエーション施設の利用者数	人	850,700	876,799	851,000 867,000	867,000 877,000	874,000 878,000
	スポーツを楽しんでいる市民の割合	%	49.3	47.4	52.3	53.3	54.3

※二段書きになっている目標値は、上段は第5次所沢市総合計画後期基本計画策定時のもので、下段は現在の目標値です。

第1節	生涯学習	いくつになっても気軽に学べ、学んだことを地域に活かせるまち			
基本方針	4-1-1 学習機会の充実				
	4-1-2 市民の学習と学んだことを地域に活かすための支援				
	4-1-3 学習環境の整備・充実				
	4-1-4 学習情報の収集・発信				
	4-1-5 学習資源の蓄積・活用				
関係所属	生涯学習推進センター				
施策に対する市民ニーズ(「平成28年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		620人	27.1%	33位	3位
節の基本方針への取り組み状況					
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○市民活動支援センターと連携し、市役所ロビーで「人材バンクフェア」を開催し、人材バンク制度の周知に努めた。</p> <p>○市民の要望を受け、担当各課と調整し「生涯学習まちづくり出前講座」により市政情報の提供に努めた。</p> <p>○市民の学習活動を推進するため、市民と行政が協働で企画運営する市民大学や、様々な学習意欲に応え教養を深める市民教養セミナー、就職やキャリアアップを目的とした資格技能取得講座、子どもを対象とした講座など各種事業を実施した。</p> <p>◆ 平成28年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○事業参加者数については、学習効果を考え定員制を設けた学級講座が中心になっているため、参加者数を飛躍的に伸ばすことは難しい。</p> <p>○施設利用者数については、パソコン研修室の機器の入替え工事や公用事業等により貸出できない期間が多かったことから、目標値には達成していない。</p>					
今後の方向性					
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○市民への生涯学習の周知を図り、地域をささえる人材育成に繋がる事業を展開していく。</p> <p>○ボランティア人材バンク制度の周知と更なる利用促進を図っていく。</p> <p>○まちづくりセンター・公民館との連携を図り、生涯学習に関する情報収集に努める。また、生涯学習情報紙等を通じて、生涯学習に関する情報を積極的に提供していく。</p> <p>◆ 平成28年度の目標指標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○事業参加者数については、市民の参加しやすい事業形態について検討していきたい。</p> <p>○事業参加者の満足度は、おおむね高い水準にあると考えているが、目標値には、まだ達していないため引き続き事業内容の充実を図っていく。</p> <p>○施設利用者数については、今後も施設の利用方法や周知等についてを検討していきたい。</p>					
特に力を入れる事務事業		学習等講座事業	生涯学習紙発行事業		
評価日	H29.7.28	記入者職氏名	教育総務部次長 師岡 林		
第2節	学校教育	子どもたちが生きる力を身に付け、一人ひとりの良さや可能性を伸ばせるまち			
基本方針	4-2-1 確かな学力と自立する力の育成				
	4-2-2 豊かな心の育成				
	4-2-3 健やかな体の育成				
	4-2-4 地域が信頼する学校づくりの推進				
	4-2-5 学校環境整備の推進				
	4-2-6 地域におけるネットワークの強化				
	4-2-7 教育環境の充実				
関係所属	教育総務課、教育施設課、スポーツ振興課、学校教育課、保健給食課、教育センター				
施策に対する市民ニーズ(「平成28年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		799人	35.0%	21位	1位
節の基本方針への取り組み状況					
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○情報教育推進の一環として、経年劣化で不安定になっていた中学校の教育用コンピュータを、リースにより更新した。</p> <p>○中学校教科書改訂期にあたっており、教育用指導書等の教材を整備した。</p> <p>○学校指導訪問や教育センターの研修会等を通して、教師の指導力の向上に努め、地域に信頼される学校を構築し、地域の教育力を活かして学校の活性化を図った。</p> <p>○健やか輝き支援室・教育センター教育相談室・教育臨床研究エリア等での相談体制の連携・充実を図り児童生徒の悩みや不登校等の問題への対応力を高める取り組みを進めた。</p> <p>○研修会の満足度について「大変よかった」、「よかった」の数値は98%である。研修の内容については参加者のニーズに合ったものであると考えられる。</p> <p>○28年度より牛乳/パックリサイクル活動を開始。学校の協力のもと順調に進んだ。リサイクルへの理解を図るため、リーフレットを作成し各家庭へ配布した。</p> <p>○子ども達や保護者へ給食が作られている様子を紹介し、学校給食センターへの理解、関心を深めるため、学校給食センターのDVDを作成した。</p> <p>◆ 平成28年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○研修参加者の研修目的と研修内容にやや乖離があった。</p>					

<b>今後の方向性</b>			
<p>◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○教育効果の向上のための校務用コンピュータ更新等、引き続き情報教育推進に向けた環境の整備を行う。</p> <p>○従来の取り組みに加え、新たに「学び創造アクティブプラン学力向上推進事業」として、アクティブ・ラーニングの指導観を取り入れ、学校・家庭・地域が一体となり、児童生徒のたくましく生き抜く力を培い、より主体的な学びを創造していく。</p> <p>○いじめ、不登校などの取り組みとして、学校に配置する心のふれあい相談員をはじめ、心理士や学校教育相談員による相談活動を充実させる。また、「いじめ問題対策委員会」との連携を図り、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を進め、児童生徒の健やかな心の育成を図る。</p> <p>○学び創造アクティブプラン研究校支援研修を通し、「主体的・対話的な深い学び」を高める指導方法を研究し市内各校に広めていく。</p> <p>○食物アレルギーに関する課題の検討やアレルギー疾患がある児童生徒への対応に取り組む。</p> <p>○市内の学校給食提供数の約6割を占める学校給食センターの再整備に向け、PFI方式を始めとする各種事業手法の導入可能性調査を実施し、再整備を進める。</p> <p>○学校トイレ改修事業を計画的に進めていくとともに、校舎内装木質化事業についても、中央中学校での改修工事を行い、学習環境改善状況を検証し、将来における事業の方向性を検討する。</p> <p>◆平成28年度の目標指標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○研修に参加する教員の年齢構成を分析し、よりニーズにあった研修内容を検討していく。</p>			
特に力を入れる事務事業	「学び創造アクティブプラン」学力向上推進事業	学校施設修繕・改修事業	学校給食センター再整備事業
評価日	H29.7.28	記入者職氏名	教育総務部次長 師岡 林、学校教育部次長 岩間 健一、学校教育部保健給食担当参事 池田 隆人

第3節	青少年育成	若者が自覚と責任を持ち、活躍ができるまち			
基本方針	4-3-1 地域・家庭・学校の連携強化				
	4-3-2 青少年へのサポート体制の整備				
	4-3-3 ニートや引きこもりの子ども・若者への支援の充実				
関係所属	青少年課、学校教育課				
施策に対する市民ニーズ（「平成28年度所沢市市民意識調査」の結果）		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		719人	31.5%	27位	2位

<b>節の基本方針への取り組み状況</b>				
◆前年度の取り組み状況に対する振り返り				
○所沢市青少年問題協議会の提言である「三つ葉の提言」を社会状況の変化等を踏まえ改定した。（「三つ葉の提言」とは、平成17年3月、所沢市青少年問題協議会が家庭・地域・学校がそれぞれの役割を再認識し、連携を深めるため作成したもの）				
○青少年の非行被害防止や健全育成についてキャンペーンを通じて啓発活動を行った。				
○青少年育成所沢市民会議や関係機関と連携して、スポーツ大会や文化事業を開催し、青少年の健全育成に取り組んだ。				
○青少年相談員協議会によるワンバクスクールなど、青少年が自然体験や社会体験などを通じて異年齢交流を図る活動を支援し、青少年の居場所づくりに努めた。				
○「子ども・若者支援ガイド」を市ホームページに掲載し、ニートや引きこもりなどの当事者及び家族に対して、関係機関等の情報提供を行った。				

<b>今後の方向性</b>			
<p>◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○改定した「三つ葉の提言」を関係機関等に配布するとともに、市ホームページに掲載し、また「三つ葉の提言」をすすめる市民の会の啓発活動などを通じて、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を再認識し、連携を深めることにより、青少年の健全育成に努める。</p> <p>○青少年育成所沢市民会議をはじめとする関係機関と連携を図り、青少年健全育成事業を引き続き実施する。</p> <p>○ニートや引きこもりなどの課題に対応するため、関係組織・機関と連携を図る。</p>			
特に力を入れる事務事業	青少年健全育成事業		
評価日	H29.7.28	記入者職氏名	こども未来部次長 町田 真治、学校教育部次長 岩間 健一

第4節	社会教育	地域や市民が主体となり、それぞれの経験を活かし、世代を超えて協働できるまち			
基本方針	4-4-1 家庭・地域の教育力の向上				
	4-4-2 人権教育の推進				
	4-4-3 公民館機能の充実				
	4-4-4 図書館機能の充実				
関係所属	社会教育課、所沢図書館				
施策に対する市民ニーズ(「平成28年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		595人	26.0%	35位	5位
節の基本方針への取り組み状況					
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○市内47校の小中学校を対象とした家庭教育学級や小学校区を単位とした子ども会育成活動など、家庭の学習機会の提供、青少年の様々な体験活動の充実に取り組んだ。</p> <p>○人権教育推進協議会との共催で、市民、学校関係者、市職員等を対象に、様々な人権課題を扱った人権講座を実施した。(12講座 参加者873名)</p> <p>○子どもの読書活動推進に向けた連絡会を年3回開催し、学校、幼稚園、保育園、保健センター等関係機関との連携を図りながら、講座の開催など様々な取り組みを実践した。また、乳幼児をもつ保護者向け利用案内等を作成・配布し、子どもの読書活動についての普及・啓発に努めた。</p> <p>○平成29年度からの図書館分館の運営について、安定した運営が継続できるよう第2期の指定管理者の選定を行った。また、全館において均一で質の高いサービス提供を継続していくため、連絡調整会議の開催や定期的なモニタリング等を実施した。</p> <p>◆ 平成28年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析</p> <p>○H28年9月1日～30日まで狭山ヶ丘分館が施設修繕のため休館だったこと、取次事業を実施しているコンビニエンスストア1店舗が11月末でサービス停止となったことなどから、図書館の資料貸出数がH28年度目標値に達しなかったと思われる。</p>					
今後の方向性					
<p>◆ 「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</p> <p>○人権尊重社会の実現を目指して、更なる人権講座の充実を図り、広く市民及び行政、学校関係者、社会教育関係団体に対して啓発を進めていく。性の多様性(LGBT)やヘイトスピーチなど、新たな人権課題についても講座を開催し啓発を進めていく。</p> <p>○公民館の施設整備の充実を図るとともに、まちづくりセンターと公民館が一体となって、住みよい地域づくり、より利用しやすい施設作りの実現に向け、地域の連携・協働の場づくりとなる事業を行い、地域課題の解決に取り組んでいく。</p> <p>○平成29年度から指定管理が2期目となった図書館分館の運営状況について、安定した良質な運営が保たれるよう、定期的なモニタリングを継続して実施していく。</p> <p>○図書館電算システムを再構築し、安全で安定的なシステムの運用とともに利用者のWebサービスへのアクセス向上を図る。</p> <p>○市民の様々な疑問や調査・研究に対応できるような資料の収集・提供を継続して行い、地域の情報拠点として役立つ図書館機能の充実を図る。</p> <p>◆ 平成28年度の目標指標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</p> <p>○コンビニエンスストア図書等取次事業におけるサービス充実に努める。また、更なるサービス拡大に向け、取次業務が可能な施設等の調査研究をすすめる。</p>					
特に力を入れる事務事業		人権教育推進事業	第8期図書館電算システム再構築事業		
評価日	H29.7.28	記入者職氏名	教育総務部次長 師岡 林		
第5節	市民文化	市民が「ふるさと所沢」への愛着や誇りをもって個性豊かな市民文化を育むまち			
基本方針	4-5-1 個性あふれる文化の創造				
	4-5-2 ふるさと研究を推進するための環境の整備				
	4-5-3 風土に培われた歴史と文化の伝承と発信				
関係所属	文化芸術振興課、文化財保護課、生涯学習推進センター				
施策に対する市民ニーズ(「平成28年度所沢市市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		546人	23.9%	37位	6位
節の基本方針への取り組み状況					
<p>◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り</p> <p>○所沢市民文化センターについて、指定管理者制度による管理運営を行った(指定管理者:公益財団法人所沢市民文化振興事業団)。また、所沢市民文化センターの大規模改修の最も効果的かつ効率的な改修手法を検討するために導入可能性調査等を行った。</p> <p>○文化芸術振興ビジョンの策定に向けて、新たに「ビジョンアドバイザー」を選任し、専門的な立場から助言をいただくとともに、「文化芸術シンポジウム」、市民意見交換会、パブリックコメント手続等に市民から意見を聴取するなどの準備を進めた。</p> <p>○「空飛ぶ音楽祭」開催に向け、専門的な立場から助言をいただくため「空飛ぶアドバイザー」を選任するとともに、実行委員会の発足等の準備を進めた。</p> <p>○生涯学習推進センターふるさと研究エリアにおいて、収集資料を活用した企画展示や体験学習会を、市民学芸員(市民ボランティア)が関与して開催した。</p> <p>○夏季企画展において、展示事業の記録冊子を作成し希望者に有償頒布した。また、郷土資料保存の周知を目的としたふるさと研究フォーラムを開催した。</p> <p>○中富・柳瀬・山口民俗資料館について「所沢市民俗資料館条例」を制定し、施設の管理・運営と収蔵資料の位置づけを明確にした。</p> <p>○市指定文化財「御幸町山車人形」の保存修理をおこない、文化財展を開催して修理後の人形を展示公開するとともに関連事業を実施した。</p>					

今後の方向性			
◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容			
○所沢市民文化センターの適正な管理運営に努め、今後予定している大規模改修の効果的かつ効率的な改修に向けたPFI手法の導入を計画的に進めていく。			
○市民の多様な文化芸術活動を支援し、音楽のあるまちづくりの推進など、文化の薫り高い施策を進めていく。また、「文化芸術振興審議会」を設置し、「文化芸術振興ビジョン」に沿った新たな文化芸術施策を探索していくとともに、ビジョンの進捗状況の検証などを行っていく。			
○ふるさと研究エリアの企画展や講座等の充実と、合わせて市民学芸員等の人材活用を通し「ふるさと所沢」への愛着を図る。			
○郷土の資(史)料等の保存の必要性や意義を市民へ周知するとともに、保存施設の整備に向け、収蔵庫のあり方について検討していく。			
○国重要文化財「小野家住宅」保存修理をおこなうとともに修理状況を公開する現地説明会を開催し文化財保護の啓発に努める。			
特に力を入れる事務事業	文化財活用事業		
評価日	H29.7.28	記入者職氏名	市民部次長 川上 一人、教育総務部次長 師岡 林、教育総務部文化財保護担当参事 木村 立彦

第6節	スポーツ振興	市民が手軽にスポーツを楽しみ、健康長寿になれるまち			
基本方針	4-6-1	スポーツ施設の整備・充実			
	4-6-2	スポーツ事業の充実			
	4-6-3	スポーツ指導者の充実			
	4-6-4	自主的なスポーツ・レクリエーション活動の支援			
	4-6-5	スポーツを通じた健康づくり			
関係所属	スポーツ振興課				
施策に対する市民ニーズ(「平成28年度所沢市民意識調査」の結果)		要望者数	要望率	全節中順位	分野中順位
		602人	26.3%	34位	4位

節の基本方針への取り組み状況				
◆ 前年度の取り組み状況に対する振り返り				
○体育施設の充実・安定的な供給確保のため、北中運動場の大部分および北野総合運動場の一部借地を購入した。				
○所沢記念公園内にある多目的運動場の人工芝化に向けて、埼玉県と協議を進めた。				
○平成28年12月11日(日)、西武プリンスドームにおいて「第27回所沢シティマラソン大会」を開催した。当日の総出走人数は、6,270人。				
○陸上競技選手権大会において、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック選手と写真と一緒に撮れる特設ブースの設置や、リオデジャネイロオリンピック陸上競技出場者による特別レースを開催し、トップレベル選手の競技を間近で観戦できる機会を提供した。				
○スポーツ推進委員によるスポーツ指導・普及とともに、親子を中心としたスポーツ教室や市民を対象としたスポーツ大会を開催した。				
◆ 平成28年度の目標指標が未達成の場合、その理由・分析				
○新体カテストにおける全種目の全国平均を上回る割合が目標値に達しなかった理由として、市平均値より全国平均値の方が、前年度よりも大きく上昇したことが考えられる。				
○スポーツを楽しんでいる市民の割合が目標値に達しなかった理由として、所沢シティマラソン大会及び陸上競技選手権大会等の参加者数が前年度より減少していることから、各種スポーツ大会の開催情報を十分に提供できなかったことが考えられる。				

今後の方向性			
◆「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容			
○体育施設の整備・充実を図るため、所沢航空記念公園多目的運動場の人工芝化の改修工事について、埼玉県と引き続き調整を進める。			
○第2次スポーツ推進計画策定作業を進めるため、スポーツ推進審議会の開催や、市民を対象とした無作為抽出によるアンケートを実施する。			
○スポーツを楽しんでいる市民の割合が目標値に達しなかったため、スポーツ大会等の情報発信の方法について今後検討する。			
○シティマラソン大会や市民体力づくり大会等を開催し、スポーツ活動を通じた人のふれあい、まちづくりの役割に努める。			
○各種スポーツ・レクリエーション団体の活動支援を通じて、市民のスポーツ・レクリエーション活動の底辺を拡大していく。			
○子どもの体力向上並びに運動が好きな子どもを育成するため、子どもへの運動機会の提供や家庭・地域・小中学校との連携強化に努める。			
○所沢市民体育館がナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設(ゴールボール)の指定を受けたことにより、トップアスリートの国際競技力向上に資する選手強化等の活動を効果的・効率的に実施する必要があるため、当該施設の環境整備や関連施設の情報収集および情報発信を行う。			
◆ 平成28年度の目標指標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容			
○子どもの体力向上並びに運動が好きな子どもを育成するため、子どもへの運動機会の提供や家庭・地域・小中学校との連携強化に努める。			
○所沢シティマラソン大会をはじめとした、市内において開催されるスポーツ大会の積極的な情報発信・情報提供に努める。			
特に力を入れる事務事業	航空記念公園多目的運動場人工芝化事業		
評価日	H29.7.28	記入者職氏名	教育総務部次長 師岡 林